

平成31年産米から 塩化カリ等の カリ質肥料の無料配布は なくなります！

いわき市でカリ質肥料の無料配布がなくなる理由

○平成29・30年産米の全量全袋検査において、すべての検査米で
25Bq/kg（測定下限値）未満であったこと

○実験的にカリ質肥料を追加施肥しなかったほ場のお米でも放射性物質が
検出されなかったこと

以上、2点の理由により、福島県よりいわき市産米の安全性が証明され、
カリ質肥料による放射性物質吸収抑制対策の実施対象外（カリ卒）となった旨の
通知があり、事業完了となったためです。

生産者の皆様へお願い

福島さくら農業協同組合からの「塩化カリ」（慣行栽培用）・
「粒状パームアッシュエム」（有機栽培用）の配布は今年から無くなることから、

- ① お米の生産にあたって、放射性物質吸収抑制対策用のカリ質肥料の追加散布を希望される場合は、ご自身でご購入願います。
- ② お米の全量全袋検査については、福島県が少なくとも平成31年産米まで実施する方針なので、引き続き受検をお願いいたします。

以上、2点にご理解・ご協力のほど、よろしく願います。

お問い合わせ

いわき市農林水産部農業振興課（全般に関すること）0246-22-1147

福島県いわき農林事務所（施肥の技術指導に関すること）0246-24-6162

JA福島さくらいわき地区本部（肥料の販売に関すること）0246-28-9107

安全な米生産が実現している根拠についてお伝えします

①いわき市では、平成29・30年産米の全量全袋検査において、すべての検査米で25Bq/kg(測定下限値)未満です。(平成31年2月1日現在)

年	25Bq/kg (測定下限値)未満	25～50Bq/kg	51～100Bq/kg	101Bq/kg～
29	491,352点	0点	0点	0点
30	468,099点	0点	0点	0点

②平成30年に実験的にカリ質肥料を追加施肥しなかった市内のほ場の玄米でも放射性物質は検出されていません。

地区	四倉町	川前町	山田町
放射性セシウム濃度 (Bq/kg)	<0.6 (測定下限値未満)	<0.5 (測定下限値未満)	<1.6 (測定下限値未満)

Q & A

Q1 配布がないということはカリ質肥料をまかなくて良いのですか？

A1 放射性物質の吸収抑制対策としての追加的なカリ質肥料について、散布は必須ではなくなりましたが、通常の肥培管理のうえで必要となるカリ質肥料の散布は継続をお願いします。
(散布量の目安:8kg/10a)

また、「原発事故後初めて作付を再開するほ場」や「稲わらをほ場外に持ち出し、たい肥を施用していないほ場」では、カリ濃度が低い可能性がありますので、カリ質肥料の施用をお願いします。

Q2 カリ質肥料を散布しないことに不安があるのですが？

A2 補助事業による配布は終了となりますが、ご心配の方はお近くのJA営農経済センターや肥料販売店等でカリ質肥料をご購入願います。

また、稲わらやたい肥のほ場へのすき込みも放射性物質の吸収抑制対策に効果がありますので、施用をご検討ください。